

月刊 わらじ 2月号

特集 おやすみ



11月29日(土)～11月30日(日)に、横浜みなとみらいで開かれた第30回ピープルファースト大会 in 神奈川に、埼玉からはわらじの会の面々が参加しました。最近「〇〇ファースト」という言葉がはやっていますが、ほぼ「優先」といった意味。それに対して、「ピープルファースト」は、「優先」ではなく、「障害者である前に人間だ」という意味。40年前のアメリカ、カナダで知的障害者と援助者、家族がはじめ、全世界に広まった運動です。国連の障害者権利委員会の当事者委員も出しています。

わらじの会からも93年にカナダでの国際会議に参加したり、05年にはスウェーデン、オランダなどの障害者たちがわらじの会を訪問するなど、縁を重ねてきました。

日本の全国大会は最初100人から始まり、今回の第30回は1200人近くが参加しましたが、埼玉からはわらじの会だけだったのがやや残念だったと参加者たち。分科会は「ともだちをつくろう」、「おかねのこと」、「げんきがでるはなし」、「じぶんのれきしをはなそう」などで、わらじの会の面々も、分かれて参加し、盛り上がっていたとのこと。

以下は、1月20日(火)春日部市武里大枝市民センターで開かれた報告会での、べしみ通所者の愛沢新一さん(写真左)の報告。「元フジテレビキャスターの黒岩ゆうじさん、黒岩知事(写真右)が来ていた。やまゆり園の話をしていて。黒岩知事に自己紹介した。ニュースを見てましたと言った。知事は喜んでた。がんばってねと言われた。」「名刺を渡した。韓国人の人と話した。名刺を渡した。いろんな人と話した。名刺をもらった。沖縄の踊りも楽しかった。夜はみなとみらい。観覧車きれいだった。旅館行くと、みなとみらいでアンパンマンたかった。アンパンマンの歌をうたった。また行きたいです。」

二〇二六年二月一日 毎月一回一日発行 通巻五六九号
一九八四年十月四日 第三種郵便物認可 頒価二〇〇円

小さな新聞 2月号

THE CHILDSAWASHINBU
第00513号(月) わらじの会

すいごんめ
水よう 130～3:00
世一 新着、本部

ピープルファースト大会 1月20日報告会行われる

一月20日、昨年二月に横浜で行われたピープルファースト大会に参加した人たちの報告会があった。わらじの会からの参加者は、菊池よし子・森住由香里・飯田渉太・小川輝明・愛沢新一・村田玲子・柴田美恵子さんら三人。会場の入場の旗手は、愛沢新一さん。少人数に分かれて、「友達を作ろう」「げんきがでるはなし」

るはなし」「じぶんの歴史をはなそう」「がんばってる分科会」「おかねのこと」「障害者権利条約(虐待・入所施設・地域移行)」「せんきよべんきようかい」「じりつせいかつてしててますか」「国際交流」などの分科会に参加し、発言したり、韓国・台湾や全国から参加した人たちとの交流や、自己紹介の様子が映像と

もに紹介された。交流会で、横浜中華学校校友会・国術団の獅子舞などの出し物や音楽に合わせてノリノリで踊っている菊池よし子さんらの楽しそうな様子、柴田美恵子さんらの満面の笑みなど、日常とは違った姿が報告された。今年には香川県で二月に行われる。

しみの風呂リフト、リニユーアル。橋本克己さん、植上秀さんら入浴。小森陽子さん、2025年12月おそくなりになりま

田島健太郎さん、年増は病院生活。途中から重度訪問介護。地活。パタパタ武里駅前引こいさ。

日都市(陽志軒で、年末年始は病院生活。途中から重度訪問介護。地活。パタパタ武里駅前引こいさ。

「学際的パンデミック対策」という本がある。著者はスウェーデンでの新型コロナウイルスパンデミック対策を主導したアンデシュ・テグネルという疫学者。スウェーデンは厳格なロックダウンを避け、感染拡大を抑制するため、国民の行動指針となる勧告に主眼をおいた。小学校や保育園は閉鎖されることなく、12歳以下の子供たちへのワクチン接種も推奨しなかった。マスクの強制もなかった。スウェーデンの戦略は「無策による放任主義」と批判もされ、初期段階では高齢者の死亡率も高かったが、他国で深刻になったメンタルヘルスの悪化、教育の混乱、経済の低迷などに次の影響は低く、超過死亡率も低く抑えられた。スウェーデンでは、感染対策のほとんどが、省庁の専門家によって政治から独立して行われ、国民への説明も政治から独立して行われた。興味深い。

日本では、どのように対策が取られたかを詳細に記録されたものはない。感染症の医者と政治が入り混じった対策は、人々をパニック状態に陥らせた。そして、すべてがうやむやにされつつある。どのように考え、どのような根拠で対策が取られたかを翻って考えることが、今後にとっても大切だ。